

思ふ。此の極端さは、相對數式の精神的な缺陷でもある。何れの觀測者も體得する通り、經緯臺の使用者は、黒點の緯度を定むるに並ならぬ難澁を喫するが、此の新方法によれば、其等の觀測者は黒點量と群量の測定にのみ力を注ぎ、緯度量の測定は赤道儀所有者に全任する。又、兩者に於て看過する群は、群量小なる者に限られ、恐らく群量2なる群は、其の危險圏外にあると考へるが、緯度量多き群量少きものゝ問題が残る。又、現在、尙ほ未踏の、緯度と群との關係も、統計資料が日日蓄積されて行くわけである。又、目下使用中の報告用紙も改良を餘儀なくされる。

結論 私は本提案作製の日を自ら待望しておつたが、有力なる賛成者を得て實行までに進んだ。勿論、この中には尙ほ改む可き多くの個所を藏して居ると考へる。純粹の面積測定法を採用し度いが、之は何人にも可能の事ではなく、補助報告として取扱ひ、何等學術的價値を輕視せんとするのではなく、將來は月例報告にも實行し度い。だいぶ長々しく書いたが、課員は勿論、讀者の批判を得て、是非とも實行まで移し度い。遠慮なき意見を開陳されん事を、切に望んで擱筆する。(終)

田上天文臺の落成の行事

待望の田上天文臺が落成したので、去る五月下旬の好期節を卜し、下の如き記念行事が賑やかに催された。連日、天氣は好く、恵まれた。

五月24日12時より東亞天文協會の定期總會、(詳細は別頁にあり。)

同 25日14時より天文臺落成式、時局がら簡素に、遠近より百名内外の人々が集まり、先づ建築工事報告、工事者表彰、諸家の祝辭等あり、次いで山本臺長は記念講演に“近江と天文學”と題して、天智天皇、平石時光、紀正民、國友一貫齋、水原準三郎、中村要の各天文事蹟を解説し、最後に、田上隕鐵の紹介をした。此の講演は殊に地方人士の興味を惹き、講演終了後も、質疑應答が續出し、日没に及んだ。

同 26日 } 兩日共に天文臺の招待日とし、全國各地から夥しい來觀者があつた。

同 27日 } 山本博士夫妻は終日此等の來賓の迎接に寸暇も無く、多忙に、しかし、愉快に、新舊の知人朋友たちと歡談及び案内をせられた。

此の4日間、天文臺内の觀測室(2室)、研究室(9室)、應接室(4室)には各種の參考圖書、器械、標本等を陳列して、來觀者を喜ばせた。(SS)

★會 告★

來る六月より從來の振替口座二連式が四連式として、改正になりますので、爾後同封の四連式(但し從來の二連と新規印刷の二連の計二枚使用のこと)で、會費其他御拂込み願ひ上げます。東亞天文協會經理部